

今週（9月6日から9月10日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、地銀を中心に調達ニーズが強い展開が続いた。無担保コールO/N物加重平均レートは、週初6日の▲0.018%から日を追う毎に上昇し、9日には、2016年4月16日以降の最高値であった▲0.008%を上回る▲0.006%まで上昇した。ターム物は新積み期スタートのショートターム物で出会いが見られた。日銀当座預金残高は、各種の金融調節や財政受け払いを受け、528兆円程度から532兆円程度で推移した。

●レポ市場

今週のO/N GCは、概ね▲0.08～▲0.06%程度の水準で推移した。

SC個別銘柄では、2年410～428、5年140～148、10年345～363、20年170～177、30年59～71、40年10～14などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、引き続き短国買入オペが少額での実施となる中、6M・1Yゾーンを中心に軟調な展開となった。

7日に行われた短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、弱めの結果となった。応札倍率が高く、売却需要の強さが意識される結果となった。

9日に実施された6M物の入札は、前回入札時からレートは上昇したものの、概ね事前予想通りの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

10日に実施された3M物の入札についても、前回入札時からレートは上昇したものの、事前予想通りの無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

●CP市場

CP市場は、償還額がさほど大きくないことに加えて、期内物の調達が増えていないことから、入札件数が少ない1週間となった。発行は、ノンバンク業態の少額物が中心で、大型の発行は数件程度にとどまった。発行残高は、先週末比とほぼ同水準の25兆円前後で推移している。発行レートは、銘柄によるバラツキが大きいものの、全般的には横ばいであり、引き続き良好な発行環境が継続している。

10日にはCP等買入オペが5,000億円オファーされた。入札結果は平均落札レート▲0.013%、按分レート▲0.016%と前回（平均▲0.010%・按分▲0.015%）比で平均レート・按分レート共にわずかに低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/6 (月)	29,659.89	0.040	109.83	△ 0.018	△ 0.070	5,319,800
9/7 (火)	29,916.14	0.035	109.80	△ 0.014	△ 0.071	5,320,000
9/8 (水)	30,181.21	0.040	110.27	△ 0.009	△ 0.076	5,309,100
9/9 (木)	30,008.19	0.035	110.20	△ 0.006	△ 0.077	5,319,700
9/10 (金)	30,381.84	0.040	109.78	△ 0.010	△ 0.069	5,280,500

来週（9月13日から9月17日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/13 (月)	7-9月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50) 8月の企業物価指数(日銀 8:50)				8月の米財政収支
9/14 (火)		流動性供給 5,000億円 9/15発行			8月の米消費者物価指数
9/15 (水)	7月の機械受注統計(内閣府 8:50) 7月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)				8月の米鉱工業生産・設備稼働率 8月の英消費者物価指数
9/16 (木)	月例経済報告(内閣府) 8月の貿易統計(財務省 8:50)	TB1Y 35,000億円 9/21発行	20Y 12,000億円 9/17発行		8月の米小売売上高 7月の米企業在庫
9/17 (金)	4-6月期の資金循環統計速報(日銀 8:50) 7月の石油等消費動向統計(経済産業省 13:30)	TB3M 50,000億円 9/21発行			9月のミシガン大消費者信頼感指数速報 8月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/13 (月)	400	6,400	6,800	CP買入 国債補完	▲ 200 200		0	6,800	TB3M発行▲50000償還59300
9/14 (火)	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	源泉税揚げ
9/15 (水)	0	▲ 6,000	▲ 6,000	CP買入 全店共通 貸出支援	▲ 2,400 ▲ 33,800	5,000	▲ 31,200	▲ 37,200	個人向け3Y・5Y・10Y▲1800 個人向け3・5Y償還500 流動性供給発行▲5000
9/16 (木)	▲ 1,000	2,000	1,000				0	1,000	
9/17 (金)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	20Y発行▲12000
週間合計	▲ 1,600	▲ 3,600	▲ 5,200	—	▲ 36,200	5,000	▲ 31,200	▲ 36,400	

9/13は日銀予想、9/14以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期が切り替わる週となる。15日までは強めの地合いが続くと予想される。16日以降の新積み期では、新しい基準比率が適用されることに加え、特別当座預金制度が開始される。9日に発表されたマクロ加算残高にかかる基準比率の見直しでは、9月積み期の比率が15.0%（前期：18.5%）に設定された。これ自体はレートの低下要因（取り余力の減少）ではあるものの、特別当座預金制度が開始されることもあり、調達ニーズは強めの地合いが続くと予想される。レポ市場は、GC T/Nは、今週から横ばい圏内のレートで推移すると予想する。短国市場は、16日に1Y物、17日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、14日に実施が予想される短国買入オペのオフ額にも注目したい。CP市場は、発行については、緊急事態宣言が延長されたことで、9月末償還の前倒し発行がどの程度実施されるかに注目が集まる。

主要なイベントは、海外では14日に8月の米消費者物価指数、17日に8月のユーロ圏消費者物価指数改定値が予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。